

IGF2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 52 回会合 発言録

加藤： それでは、ほぼ皆様お集まりかと思しますので、第 52 回目の活発化チーム会合、進めたいと思います。第 1 番目に総務省からご参加、飯田様、いらっしゃいましたでしょうか、今日。片柳様、総務省からどなたかご参加かどうか。

山崎： 今、飯田さんのお名前が入られたので、ご本人が入られたと思います。

加藤： ありがとうございます。

山崎： もうちょっと待ってみましょうか。

加藤： 今、入られてますね、飯田様。飯田様、聞こえてますか。声がミュートになってるように見えますけれども。まだご準備中でしょうか。飯田様、もうちょっとお待ちしましょうか。飯田様、ご準備できるまで、河内さんから MAG アップデートがあればお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

河内： 聞こえるでしょうか。

加藤： 聞こえております。

河内： MAG は、6 月末の対面会合の後はあまり大きく動いてなくて、ジュネーブでの対面会合のセッションの最後で、今年、MAG がいつも主催して企画するメインセッションのテーマについて議論したんですけども、そこで決まりきらなくて、そこで決まったのは、今年のサブテーマは 4 つありますけれども、その 4 つのテーマごとに基づいてテーマをそれぞれ決めましょうということになりまして。その 4 つのテーマごとにグループを作って、今の MAG のメンバーも過去の MAG のメンバーも入れると思うんですけど、希望者がそれぞれのグループに入って、私が入ってるグループは 7 月に 1 回ぐらい会合がありましたけども、それ以外はメーリングリストで意見交換をして、今私が入ってるグループではテーマも決まって、だいたいどのような内容をディスカッションするかも決まって、あとは今、スピーカーとかモデレーターを誰にするかという意見交換をしているところです。その辺をグループごとにまとめて、次回 8 月 20 日に MAG のリモート会議があって、それまでに各グループ内でまとめて、それを MAG の会議で議論する予定になっています。

今動いてるのはその程度です。以上です。

加藤： 河内さん、ありがとうございます。皆さんいかがでしょうか。ご質問ございますか。前回、51 回目の活発化会議で、その直前に行われた MAG の face to face のミーティングのご報告いただいたんですけども、その後もしわかれば、ビジネストラックとかジュディシャリートラックが今度できるってことですが、その辺についてアップデートありますか。

河内： まだ何もありません。

加藤： 国連のほうにもあまり何もアップデート載せられてないですね、どういうことやるか。

河内： 多分、今夏休みであまり動いてない感じがします。

加藤： ありがとうございます。皆さんいかがですか、ご質問は。MAG について。メインセッションについて 4 つのサブテーマの議論とか、Day0 の議論とか、その辺もあんまりまだ決まって発表されない状態だっただけです。

河内：　そうです。まだグループごとに内部で検討してる最中だと思います。

加藤：　わかりました。皆さんよろしいですか。河内さん、ありがとうございます。飯田様、いかがでしょうか。ご準備できましたでしょうか。総務省の飯田様。

飯田：　はい、聞こえてますか。

加藤：　聞こえます。ありがとうございます。

飯田：　すいません、遅くなりました。

加藤：　いえ、とんでもないです。

飯田：　失礼しました。こちらからもそんなにたくさんあるわけではないんですけども、GDC の議論について少しご報告をします。

今日のところは以上です。

加藤：　飯田様、ありがとうございます。今の飯田様の、GDC に関するご報告について何かご質問等ございますか。皆さん大丈夫でしょうか。皆さんのお考えになる間にひとつ私から。IGF とかコネクティビティについては、だいぶ内容的にいい方向になってきた感触ですけども、IGF について、今後継続すべきだとか、そういう積極的な評価もあるんでしょうか。

飯田：　既存の取り組みとそもそも重複しないとか、これは活用していくことが基本線になってますので。もちろんその WSIS+20 のレビューがあるので、決定的なことを書けるわけではないですけども、ただこれを尊重して今後の議論をやっていく理解になってると思いますので、ある程度我々の目指した方向になってるのかなと思ってます。

加藤：　ありがとうございます。皆さんいかがでしょうか、ご質問は。大丈夫でしょうか。かけ足になりますけれども、もし後でも GDC、またそれ以外についても、飯田様へのご質問、コメントがあればお願いしたいと思います。次に移らせていただくとして、先日 NRI の会議があったようですけども、それについて山崎さんからまずご報告いただけますでしょうか。

山崎：　では山崎から報告します。資料 1 に沿って報告します。7 月 29 日、先週の月曜日に開催されました。聞こえてますよね？

加藤：　聞こえてます。

山崎：　ほぼこの 3 番目、NRI メインセッションのタイトルについてのみ議論したということになります。提案は 20 以上あったんですけども、そのなかから、最初は **Strengthening multistakeholder digital cooperation, what role for NRIs?** というのが有力だったんですけども、その後 **Evolving** というのを入れたほうがいいってことで、**Evolving role of NRIs in Multistakeholder Digital Governance** という案が一番有力です。これで全ての NRI 関係者に告知するとなっておりますけども、その後メーリングリストでは多少異論も出たんですけども、多分この案で決まるんじゃないかと思います。他にこの 4 番と 5 番もあったんですけども、これは時間切れで議論できなかったんで、メーリングリスト上で意見交換して、次回会合までにある程度決めたいという意向が事務局より示されています。日本からは河内さんと私が出席していて、全部で、私が数えた限りでは 41 名出席していました。そんなところですけど、河内さん、もし補足があればお願いします。

河内： 大丈夫です。

山崎： ありがとうございます。

河内： すいません。

山崎： NRI については以上かと思いますが、参加者からもしご質問等あれば。

加藤： 皆さんご質問いかがでしょうか、NRI 関係。

特にございませんか。もしわかれば河内さんも、MAGでもこの multistakeholder の参加についての議論が結構中心になるだろうという話が以前からあったと思うんですが、NRI でのこの multistakeholder の話は、内容的には今回は議題としてタイトルが議論されたってことですが、内容的にはNRIの場合、どんな方向になるんでしょうか。山崎さん、その辺、what role for NRIs? を入れたところが、

山崎： 背景ですか。

加藤： 背景ってか、何を主に喋りたいっていう、NRI 的な色付けみたいなのがあるのかなって伺ったんですけども。

山崎： ちょっとその背景まで完全に把握できてるわけじゃないんですけども、やはり WSIS+20 とか GDC とかあって、だいぶいろいろ議論がなされてるなかで、NRI の役割がますます重要であるということ、確か GDC のなかにも NRI の役割がどっか書き込まれてたと思うんですけども、そういったこともあってますます重要になるってことで、どういう役割があるのかを改めてまた議論したほうがいいんじゃないかってことだと思んですけども、ちょっと私もそこはスパッとお答えできるほど深く理解してるわけではない。河内さん、もしご存じのことがあれば。

河内： もう最初に、ここ今映してもらってる 1 からちょっと下のほう切れてますけど、最初 18 個あって、そのあと当日またこれも提案する、あれも提案するっていくつか出てきて 20 個以上になったと思うんですけど、その提案ってもともとメーリングリストとかでいろんな人から出されたものをずらっと並んでいて、このなかでどれにしようって話になったので、セッションの中身の話ではなく、とりあえずこのタイトルがどうあるべきって話にいきなりなったので、中身についてまで話が及ばなかった、その時間は全然なくて。ただこの 16 番の最初のやつですかね。

山崎： これは私が書き込んで、緑色の部分は会議途中に書き込まれたもんです。緑の部分除いたのがもともと書かれてた。

河内： 最初、Strengthening multistakeholder digital cooperation で、what role for NRIs? だったんですかね、なんかこの、

山崎： インターネットガバナンスとか、もしくはデジタルガバナンスを追加したほうがいいって意見が会議中に出たということ。

河内： そうなんです。一番議論のポイントになったのは、このデジタルコーポレーションなのか、インターネットガバナンスなのか、それともデジタルガバナンスなのか、そこで議論になって、なのでインターネットガバナンスじゃなくてデジタルガバナンスのほうがもっと広くカバーするんじゃないとか、いろんな議論はありましたけど、その中身までは話は行く時間がなかったのが事実です。

山崎： 皆さんそういう言い回しレベルで意見が活発に出て、表で誰かが喋ってる裏でチャットがバンバン飛び交ってた感じでした。

加藤： ありがとうございます。私、この回出れなくて、お2人に大変申し訳なかったんですけども、NRIとしてこの multistakeholder の議論する場合、例えばNRIだからこういう stakeholder がこういうかたちで参加できるということが強調されるのかなとか、もう少しNRIとしてこれを議論する場合の視点みたいなのが、これから議論されるのかなって、議事録を拝見してて思ったんです。もうひとつは、それによって今後、スピーカーとかモデレーターを決めてくスケジュールになりますよね、これNRIも。

その場合に、何か我々としてもインプットがあるのかなって思ったんですけども。山崎さん、スケジュールはそういうことですね。これから具体的な中身、スピーカーを決めてっていうスケジュールになるわけですね。

山崎： はい、そういうことになると思います。

加藤： おそらくこういう、NRI だとしてもこれがメインセッションに取り上げられるってことは、昨年の京都の会議でもの multistakeholder は非常に議論され、かつ GDC でもそういうことが議論され、NETmundial(+10)でもまさにそのあり方の提言があったわけで、今年ももう少し突っ込んだ中身の議論が、IGF では行われていくのかなって感触ですけど、だいたいそういう感じですかね、山崎さん。

山崎： そういう感じだと思います。

加藤： それでこのディスクリプションから、今後それがどう続いていくかと、この辺がNRI関係のIGFからのまとめです。ということだと思いますが、皆さんご質問、ご意見ございますか、今お2人に関して。今、映していただいているの共有、皆さんにさせていただけるんですか。

山崎： そうですね。我々に共有されてるものなんで。

加藤： おそらくお見せしても、

山崎： お見せして全然問題ないと思います。

加藤： NRI のコーディネーターは地域のメンバーの方々との交流、情報交換がメインなので、おそらく他のNRIコーディネーターもそれぞれの地域でいろんな人にそういう報告してフィードバックもらってると思うんですね。これ非常に、そういう意味じゃ、こういうことをディスカスするって内容、ディスクリプション、こういうの非常に有効かなと思いますので、もしよろしければ。

山崎： リンクは資料1に付けてありますので、皆さん飛べるはずです。

加藤： そういうことですね。失礼しました。重ねてあれですけど、皆さんご質問等ございますか。決戦投票までやったのは非常に、あまりないことですね。拮抗してたってことですね。それじゃあアジェンダ、次に移らしていただいてよろしいでしょうか。今日のスケジュールに沿っていきますと、次、APrIGFも8月後半になっておりますけれども、情報交換ということで何かAPrIGFにご参加でこんなことを考えてるとかこういう情報があるって方、いらっしゃいますでしょうか。ご参加の予定の方はぜひ何か一言ずつでもご披露いただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

山崎： 山崎から。

加藤： お願いします。

山崎： 私、参加予定ですけども、他の皆さんみたいに具体的にセッションを提案した状況ではないんですけども、なるべく議論に参加して、持ち帰れるものはこの場に持ち帰ればと思っておりま
すけれども。河内さんとかは具体的にセッションご提案なさっていらっしゃるの、もっといろいろ
ご報告いただけるんじゃないかと思います。

河内： 私が提案したセッションは、上村先生と加藤さんが参加されるので、私はリモートでそのセ
ッションは参加します。なので現地に行かないので。

加藤： 名前を出していただいたんで、簡単に私のほうから。今日、上村先生の名前、お見受けでき
ないんでご欠席かなと思うんですけども。

上村先生がモデレートしていただいて、実は先ほどの飯田様にもリモート参加をしていただく予定で
すけれども、マルチステークホルダーの考え方について、過去の変遷、特に ICANN 設立の時代とか
WSIS のなかでマルチステークホルダーってことが議論され田中で、過去少なくとも ICANN とかそう
いう分野では、マルチステークホルダーの考え方がうまく熟成されてきたんじゃないか、そういう観
点で。そうは言っても、なんでもマルチステークホルダーだったらいいわけじゃなくてどういうもの
なのか、しかもマルチステークホルダーの定義は何かとか、いろいろな発展段階がいろんな方の分析
であるようですけども、そういうことをいろんな方に議論していただくセッションを企画されてる
と理解してます。上村先生からも、問題提起のようなもの、議題が内部では出されておりますので、
いずれ帰国後になるかもしれませんが、そういうことをご披露いただけるんじゃないかと思いま
す。同じことを現時点で、これは上村先生ともご相談したことなんですが、11月に予定されている
日本 IGF 会議でももう少し深掘りをして、12月のセッションに繋がりたいと考えています。12月のサウ
ジアラビアでは同じようなかたちで、Day 0でおそらくこのセッションを行えるかなと。これ河内さん
経由の情報ですけども、感触を得ております。というのが、上村先生が主催されている CFIEC とし
ての今の活動を、その一環として台湾で行うことをございます。あとご参加の方、ご参加予定の方々、
一言ずつでもいかがでしょうか。前村さんはご出席ならいいんですけど。

前村： APrIGF はオンラインで1セッション、今のところは入ってます。

加藤： わかりました。どんなセッションとか、それはぜひ聞かせていただきたい。

前村： NETmundial+10とかいろいろあったけど、どうなっていくんだろうみたいな。auDA のジョ
ーダン・カーターが首謀者というかそんな感じで。

加藤： ありがとうございます。あと日本の方で参加される方ございますか。お名前を。

立石： すいません、立石ですが。

加藤： 立石さん、お願いします。

立石： 私も一応行きます。セッションの、僕どっかに名前が入ってるんですけど、それが自分です
いません、理解してなかった。2日目であったと思うんですけど、入ってました。すいません、自分で
探してるんですけど、1回見つけたんですけどそれ以降どこ行ったかわかんなくなっちゃって、すいま
せん。何かに出ます、よろしく。

加藤： 何の件って全くわからないですけど、

立石： それがわかんないんです。僕、1回メールで、これに名前入れとくけどいいかってのもらったんですけど、それっきり特に連絡がないんで。別の人に、お名前入ってるぞって言われて気が付いたんで、すいません、わかんないんです。

加藤： わかりました。お疲れ様でございます。上村先生の主催されるセッションも、時間の変更、最近急に言ってきたりしてるんで、時間の変化とかもあるのかもしれないですね。

立石： かもしれないです。

加藤： もしわかればまた共有していただければ。

立石： プログラム、一覧が出ないじゃないですか、中身と。

加藤： 中身もすぐクリックして、先日は出なかったですね、まだ。

立石： 今はリンクで全部追っかけないといけなくて、すいません、それを全部見ないといけないんで、わかんなくなっちゃいました。

加藤： わかりました。もしわかれば、

立石： わかったらまたよろしくお願いします。

加藤： あと総務省からはどなたかお出になりますか。さっき申し上げたように、CFIEC のセッションで飯田様にもご参加いただくようお願いしている以外、現地ですらっしゃる方で、何かアップデートいただく情報は特にないでしょうか。

立石： 台湾ということもあり、現地参加は多分ないんだろうと思いますが、オンラインでも私は、今ご案内いただいているセッション以外には今年の特段いただいてないと思います。気がついてないものがあれば別ですけども、今のところ認識してないです。

加藤： わかりました。ありがとうございます。ということは、データ課からも片柳さん、どなたもご出席にならないですね、やっぱり台湾であると。

片柳： 片柳です。お世話になっております。データ課も、私が承知している限りでは、誰も出ることにはなってないです。

加藤： わかりました。やっぱりその辺、センシティブティが若干あるってことなんですね。その分、ひょっとしたら盛り上がるかもしれませんが、その辺は現地で確認してみたいと思います。あと何かAPrIGFでご共有いただく情報ございませんか、皆さん。

立石： すいません、JAIPA の北村さんとかがセッション提案してて。JPRS の北村さんが出るんですか、それまで、すいません、ちょっと私も。JPRS で多分 JAIPA のあれとして出してると思うんですよね、モバイル系の人たちで。

加藤： JAIPA として JPRS の北村さんが出る？

立石： と思います。それはプログラムで私も1回見つけてて、行きますってお話は伺ってます。

加藤： わかりました。

立石： それもちよっとすいません、今プログラムで掴めてないんで。

加藤： 承知しました。ありがとうございます。もしそういう情報で現地で共有いただくとかあれば、

よろしく申し上げます。

立石： はい、申し上げます。

加藤： APrIGF はそれぐらいでよろしいでしょうか。これ以外について、先ほど GDC については飯田様から詳しく教えていただいたわけですが、WSIS+20 だとか NETmundial(+10)はもう少し、今落ち着いてるのかもしれませんが、その他のイベントについて何かご報告、共有いただくことはございませんでしょうか。

山崎： 高松さんから手が上がってます。

加藤： 高松さん、お願いいたします。

高松： すいません、ミュートにしてみました。APIGA のお話をと伺っていましたが、このパートでお話しする形でよろしいですか？

加藤： このパートでいいと思います。項目としてきちっと書いてなくて失礼しました。

高松： APIGA の Web ページをご紹介しながら簡単に報告します。今、画面は共有されてますでしょうか。

加藤： 見えております。

高松： 一応チャットのほうにも、今、画面共有している APIGA のホームページの URL 貼っておりますので、もしご覧になる方はリンクを押して見ていただければと思います。簡単にではございますが、7月の頭に Asia Pacific Internet Governance Academy というイベントで、ccNSO についても登壇する機会をいただきましたので参加してきたということで、イベントのこの場では概要についてご報告、ご紹介できればと思っております。こちらのイベント、初めて耳にされた方もいらっしゃるかと思ひまして、ざっくりとまず中身なんですけど、こちらにあります ICANN と KISA という韓国の ccTLD レジストリが共同で開催しております。こういったイベントなのかというと、アジア太平洋地域のユース、といっても18歳から34歳か5歳ぐらいまでを対象としたイベントになっておりまして、内容的にはインターネットガバナンスは何か、インターネット資源とはなんなのか、multistakeholder モデルで議論をしていくのを実際に体験してみよう、あとはアジア太平洋地域のユースが参加しているということで、なかなか英語で議論する機会がないため練習の機会を設けよう、といった様々な目的を持つイベントとなっております。1週間ぐらいのプログラムで開催地が、Co-Host に KISA が入っているということで釜山だったんですけども、全部でだいたい40人弱の参加があり、今、画面共有しております Country/Territory のところにあります通り、韓国の人たちも3分の1ぐらい参加しているんですけども、普通に参加者は応募して審査を通った人たちということで、アフガニスタン、オーストラリア、インドなども入ってますし、あとはラオスとかもあれば、パプアニューギニアやサモアといった太平洋の島々からも参加がある感じになっております。こういった人たちで、5日間セッションになってるのですが、オープニングセレモニーといったものもありながら、インターネットの歴史の紹介や、オンラインで事前に勉強はしてきてるんですけども、インターネット資源とは具体的にどういうところなのかといったレクチャーがもう少し詳しく行われていました。そういった中の1つで、ICANN の下部組織がどういうのがあるのかといった紹介もされました。具体的に写真を見せたほうが雰囲気伝わるかなと思うので、ココからは写真をベースに紹介します。会議場自体はホテルの一室を使っており、こういった円形のテーブルに座りつつ後ろのほうに、映ってま

せんが、講師用のテーブルもある感じで、1つの会場で5日間、開催されております。もちろん講義形式のこういったセッションも複数予定はされているんですけども、ただ講義を聞くだけではなくて、これはちょうどIPアドレスの仕組みを理解しようといったセッションだったんですけども、具体的にカードを使ってみたり、もしくは立ち上がってその仕組みの一部になりきって、どういうことが行われているのかを体感してみよう、理解を深めてみようといったセッションも設けられています。実際にカードゲームといったグッズを使うのもあったんですけども、メインのところはやっぱりこういったグループディスカッションになっています。こういったグループディスカッションをするかなんですけど、例えばテーブルごとに、政府の立場になったり、今の一般市民、市民社会、インターネットユーザーの気持ちになって考えてみるテーブルであったり、そういったグループごとにその立場に沿って、1つのテーマについての検討をするかたちになっていて、外側に、ちょっと見分けがつきにくいんですけど、この写真に写っているこちらは講師陣で、この人はGNSO評議員もされてる方で、こっち側が参加者の方で、非常に距離近くグループディスカッションなどもしながら、期間中話がなされていました。ディスカッションもたくさん発表も含めた機会設けられたんですけど、最初は多分、初めて会った人たちばかりで硬い空気だったんですけど、5日間通すと最後のほうにはこういった、非常に距離近く、同じ課題をくぐり抜けてきたという関係がみんなそれぞれでき上がっていて、終わった後も引き続き関係が続いているのかなってところと。先ほど1つ前の話題になっておりましたAPrIGFのほうにも、引き続き参加をするつもりだっただけで人たちがいて、このイベント期間中でいろいろ学んで関係作りをした部分もあるんでしょうけれども、そのあとにも続いていく関係作りがなされた、それがこのAPIGAというイベントなのかなと思いました。ざっくりとしたご紹介と、あとは感想なども混ぜさせていただきましたけれども、以上で簡単にAPIGAについてのご紹介です。お時間ありがとうございます。

加藤： 高松さん、ありがとうございます。貴重な体験をされてお疲れ様でした。ご質問等いかがでしょうか。いきなり振ってあれですが、同じような若者教育とかご関心お持ちの田中先生、何かご意見、ご質問とかございます？突然の指名で申し訳ないですけど。

田中： ぜひ日本でもこういう催しが、ゆくゆくはなされるといいなと強く思っています。

加藤： School on Internet Governance (SIG)ってのがまさにこの先駆けで、韓国が長年、アジアの人を集めてやってらっしゃるのは素晴らしいことだと思うので、何かうまくこういうこと、連携なりしながら日本でも進めていただけると、多分リソースの有効活用にもなるし、日本ももう少しグローバルなところに、若い人たちが参加できる場ができるかもしれないですね。

田中： SIGとAPIGAは母体がそれぞれ、IGFのDynamic Coalitionであるのと、ICANNのキャパシティブルディングって違いがございしますが、いずれにしても日本でそういうキャパシティブルディングの仕組みが必要ななか、どのプレイヤーがどういうロールを行なったらいいのかとと思っているところではございます。

加藤： ありがとうございます。木村さんから何かございますか、今。

木村： 先ほど話が出た、JAIPAの北村さんのAPrIGFに提案したプログラムが見つかりましたのでチャットに書きました。

加藤： ありがとうございます。APIGAの件かなって思ったんで、すいません、突然ご指名しまして。皆さん、いかがでしょうか。高松さんへのご質問ございますか。特にございせんか。またもしあれ

ばということで、いろんなことをすでにカバーしておりますので、もし一般的にも質問があればお願いしたいと思います。APIGA 以外に最近の動き、こんな会合があったとか、こういう動きがあるってことをご披露いただく他にございますか。いつも NETmundial ばかりあれですけど、前村さん、その後特に NETmundial として、いろんなところで NETmundial が引用されてることはあると思いますが、特にブラジルとかその動きは、最近はないんでしょうか。

前村： 綺麗にないんですよ。GDC のドラフトから NETmundial って単語が消えたのはみんな悲しんでると思いますけども。

加藤： 消えたんですか、完全に？

前村： 消えました。それは蛇足ではありますが。

加藤： わかりました。ありがとうございます。あと皆さん、特にないでしょうか。スケジュールに沿って次に移らせていただきます。活発化チームの今後の議論がまだ延々と、私が言うのは申し訳ないんですが、議論が進んでおまして、前回 51 回で、14 回目、15 回目の会合がありましたが、その後、ここに書いていただいた通り、第 16 回目の準備委員会の会合を 7 月 19 日にやりました。それに先駆けて、7 月 5 日に JAIPA 様から、それを受けて 7 月 18 日に JPNIC 様から新しい法人の定款案が出されまして、19 日は JAIPA 案と JPNIC 案を踏まえて、ほとんど実はもう差がなくなってきた段階になったんですけれども、その違いについて議論をしていただきました。7 月 19 日にかなり議論が煮詰まりまして、それを受けて今、根岸先生という弁護士さんがいろいろとお手伝いをしていただいているんですが、その先生が、いろいろな文言の最終チェック、リーガルチェックを含めて今ドラフトしていただいております。2、3 日前に根岸先生から、作業しておりますがいろいろ細かいことをいろんなところと確認するのに時間かかっていますって連絡があったと思います。私の理解では、今日時点でまだ根岸先生から、JAIPA さん、JPNIC さん、関係者のご意見を反映したものの最終版ができて来ていないんですけれども、近々それが出されると思います。

その最終版が出れば、定款の内容についてはほぼ終了で、もう一度関係者でそれをレビューして、必要であればまた会合をもって議論するけれども、ほぼこれでまとまりということであれば、準備委員会として定款の案を議論するところはだいたい完了したかなということ。あと今後は準備委員会として具体的な人選の提案、設立時の参加者募集、いろいろそういう手続きがあるのかと思います。そういう意味で、かなり法人化に向けて作業が進んでいると理解しています。以上が私の理解なんですが、前村さんとかご参加の方で、追加、修正いただくことございますでしょうか。

前村： 前村です。今の加藤さんのおっしゃり方で依存ございません。そんな感じです。根岸さんから早く出てくると、また次に進めると思っているところです。

加藤： もし根岸先生から最終まとめの案が出てくれば、それでコメントして、必要ならすぐもう 1 回次の会合をセットアップするってことで、いつも山崎さんがその調整していただくんですが、そういう段取りになると思います。他の方、いかがですか。何かこの件に関してコメントいただくことございますか。JAIPA さんの側もよろしいですか。立石さん、木村さん、特にございませんか。

立石： はい、特に私のほうはないです。ありがとうございます。

加藤： これはかなり収束しつつあるというご報告で、次に進めさせていただきたいと思います。第 10 番目の項目として、前回の会合で 11 月 5 日から 8 日のうちの 2 日程度を前提として、今年の日本

IGF 会合を開催しようという方向性を決めていただきました。実はその作業にあたって、開催の準備のためにプログラム委員会を設けようということになったんですが、残念ながらまだそのあと、手を挙げてらっしゃる方が私と前村さんしかいないんですが、この場を借りて自分も参加するって方、いらっしゃいますでしょうか。

立石： すいません、立石ですけど。私のほうもプログラム、参加させていただきたいと思います。よろしく願います。

加藤： 他、いかがですか。名乗っていただけてないですが、勝手に私が期待してあれですが、山崎さんはいろんなかたちでご協力いただけますよね。

山崎： もちろんです。手を上げなきゃいけない。

加藤： 前村さんから2名のに、

山崎： 裏方として関わるんだなと思っていて、すっかり忘れていました。

加藤： ありがとうございます。山崎さんがいらっしゃると100人力じゃなく1000人力なので、よろしく願います。それで4人は最低揃ったわけで、あとどなたかがいかがですか。例年だと、これも勝手に名前を出してあれですが、堀田さんとか高松さんとか非常に積極的にリードいただけるんですが、今日、

高松： すいません、高松です。名前挙げていただいた堀田とも話したんですけど、継続的な検討に関わるといったのは、11/5の週はIETFで堀田がそもそもいないのと、私もICANN会合への出張も考えると、当日参加できない可能性が非常に高いので、例えば公募した結果の審査のところに参加するとか、そういった単発的なものであればご協力できるかなと思ってんですけども、継続的な参加は厳しいかなと思っております。

加藤： わかりました。プログラム委員会ということで、先ほどの立石さん、山崎さんも加わっていただいて議論することになると思いますが、今まで通りの公募の審査プロセスを取るかどうか、それも含めてもう少しピンポイントでこういう方に声を掛けてやっていただくとか、そういうかたちをひよっとすると取るかもしれませんので。

可能な限りでそういう方向性を決める会議とかで、過去のご経験踏まえてコメントいただく、時間が合えば、ということはいかがでしょうか。力仕事の、いろんなものをレビューするとか、そういうことではないのかなって思ってるんですけども。これ今見せていただいているのは、昨年の方とは違って、一昨年とかそれ以前に戻るとして、今までのようなフルスケールの公募プロセス、評価プロセスをやるかどうかも含めて、1度、会合をやっていただくのがいいと思うんですけども、前村さん、立石さん、山崎さん、いかがですか、その辺。もうそのプログラム委員会の頭出しをしちゃう格好になりますけれども。

前村： 立石さん、先にどうぞ。

立石： 別に特に私はなくて。頭出しというほどじゃないですけど、昨年の京都から次の、ほとんど1年間、特にIGF活動的なのは日本国内にはなかったんですけど、リヤドで何かお話できるものを1個(用意)しといたほうがいいかなと感じています。ぐらいしかないですね。SIGのほうも、すいません、実は今年のプログラムがまだできてなくて、いろいろ悩んでるところではあるんですけど。すいませ

ん、私は頭出しっていうか、日本の IGF としてこういうのやっていますって言える、いつも報告会ばかりみたいなき感じなんで、もうちょっと国際的に、AI と言うとちょっとバズっちゃうんですけど、そういうことかなと思ってます。

加藤： ありがとうございます。立石さん、いきなり質問で恐縮ですけど、リヤドで話せるって意味は、セッション募集とかもう済んじゃってるんでそういうかたちではなく、

立石： いや、そういうことじゃなくて多分、去年京都に来てもらった人たちもいろいろお話をするだろうし、その後日本どうなったのって言われたときに、いや、何もやってませんっていうのはちょっと恥ずかしいなって、そういうレベルの話です。

加藤： それ例えば 11 月にこういう国内の IGF をやりましたと、それはそれでやれば、簡単な英語の報告も作って日本 IGF の活動として出すわけですけど、それ以外に、例えば先ほどの法人化の話とか、そういうイメージですか。

立石： はい。もっと言うと、ちょっと 1 つ、私、ちょっとまだ公表はできないんですけども、来年の IGF にセッション提案できるようなものを考えてるのがあって、そういうセッションのパネリストを探さなきゃいけないんですけど、その探すネタになるものも持っていければと思っています。

加藤： わかりました。ありがとうございます。山崎さんとか前村さん、何かこの場を借りて、今お考えのこと、ご披露いただくことありますでしょうか。それを踏まえて、1 度手を挙げていただいたプログラム委員の方と次の議論していただくことになると思うんですけど、いかがでしょうか。

前村： 山崎さん言って。

山崎： 私からはロジですけど、通常というか、2 年前とかその前に比べるとかなりスタートが遅いので、かなり急いでやらないと間に合わないということで、このスケジュール欄を書かせていただきました。ですからプログラム委員会の始動って何を指すのか、今までに手を挙げたメンツでとりあえず始めることだと思いますけども、位置付けについてはもう今日決めてしまうということ。あとはテーマを公募するかどうか、そこまでもし決められれば今日決めてしまいたいと思います。

ちょっとプログラム委員会が始動するかしないかのレベルで、そこまで決めちゃっていいのかってのはあるのかもしれない。とにかくもう 9 月になったら即、セッションの攻防を始めるぐらいでない間に合わないんじゃないかという感触を持っています。

加藤： ありがとうございます。どちらにしても今日名乗り出ていただいた方で早めに第 1 回会合をやったほうがいいですね。前村さん、お願いします。

前村： 私が今、何考えてたかっていうと、去年の事前というのは京都向けスペシャルバージョンで、京都に出してるセッションの予行演習というのか議論のウォーミングアップみたいな感じで、かなり特殊にやったんですね。それで今後この国内 IGF 活動進めていくとすれば、おそらくは IGF やった後に報告会みたいなものをして、その前に年次会合みたいな言い方をしますが、国内 IGF 活動の年次会合みたいなものをやるとすると、割と特別バージョンではなくて、ツールキットに従った、準拠したかたちでやるべきだろうなと思っています。そうすると少し重くはなるんですが、それをできるだけ軽めにやらないといけないだろうというイメージにあるんで、今日それができればそれなりにいいのかもしれないんですけど、初回会合ではまずタイムラインを見つめて、これくらいの規模で作業するのかなとか、あとは活発化チーム自体がオープンにやってる活動でもありますんで、あまりこ

の案をパブコメしたほうがいいかみたいなものまでは必要ないので、プログラム委員で決まったことを活発化チームでOKって感じにするんだったら、そういうのもありかなってのも含めて、できるだけ軽く、なおかつサボらずにというのか、ツールキットに従った、準拠したかたちでやれるようにしなきゃいけないと思っています。頭にあるもの、一応ちょっとダンプさせていただきました。

加藤： ありがとうございます。それじゃ山崎さん、先ほどの4人プラス高松さんには、オブザーバーでも結構ですけども、ご招待をしていただいて、調整3で、今から1、2週間で1時間ぐらい議論できる時間を確認していただくことができますでしょうか。

山崎： もちろんです。やります。

加藤： 立石、山崎、前村、加藤、それから高松さんにも、勝手に高松さん、申し訳ないですが、出来る限りでももちろん結構ですので、いろいろとご意見をいただいて、プログラム委員会として方向性を決める、必要に応じて活発化委員会に提案をするということで、まず第1回会合を行うということをお願いしたいと思います。何か他にありますでしょうか。現時点でこんなことぜひ喋りたいとか、喋るアイデアがあれば、なるべく早めにご披露いただければと思います。よろしく願いいたします。

前村： 前村ですけども、いいですか。サブの話じゃなくて大変恐縮なんですけども、あんなメールを送ってしまったぐらいに、できるだけたくさん、数って問題ではないんですけども、

加藤： プログラム委員ですね。

前村： はい。IGFの会合のコーディネーションに積極的に参加していただかないと、寂しいですってのはちょっと情緒的すぎるんですけども、誰も応募がないと思って、山崎と話しててちょっと辛くなってきて、気分が。山崎、事務回しますんで、結局俺1人がやってればいいのかみたいな気分になるのはわかるんですよ。

それをさせるわけにもいなくて、プログラムを応募していただく貢献ってのはもちろんあり得るんですけども、マルチステークホルダーでやるんだったら、そもそもプログラム委員会に人が少なすぎるってなんなんだろうって問題もあって、プッシュするわけではないんですけども、ちょっと迷ってらっしゃる方がいらっしゃったら、ぜひとも今からでも声をあげて手を挙げていただいて、一緒にやらせていただくといいと思いますんで、皆さん、どうぞよろしく願いします。以上です。

加藤： 前村さん、ありがとうございます。ぜひ今日の議事録の一番後ろに色付きで、継続してプログラム委員の自薦、他薦を募集しておりますというのも書いていただければと思います。ご指摘の通り、日本でのIGF活動の中心が、年に最低1回、こういうIGFの総会、全体会議を行うということで、それが日本のIGF足りうる条件ですので、そういう意味で皆が参加してそれを行うことは非常に重要だと思います。それからこのプログラム委員とか、こうやっていろんな方針を決めていただく方こそ、その日本IGF活動の中心で、オーガナイズングチームとして活動していただく役割を担っていただくことになると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。前村さん、そういうことですよね。

前村： はい。ありがとうございます。舌足らずなところを補っていただき。

加藤： とんでもないです。よろしく願いします。それでは、以上で今日の議題、一応全てカバーしたと思いますが、何か追加でご発言いただくことございますか。

田中： 手を挙げました。田中です。

加藤： ごめんなさい、田中さん、お願いします。

田中： 活発化チームのミーティングになかなかリソース的に出れてなくて、久しぶりの参加での急な発言となって大変恐縮です。このプログラム委員の話であったり、準備会と合わせて、個別のアジェンダの中での発言としてはちょっと言い難いのですけれども、雑談レベルで情報というか感覚を共有させていただきたくて発言いたします。参加してくださいというコールについてですけれども、今この活発化チームのリストに参加している方とか、この会議に参加している方にはリーチできていると思うんですけれども、旧来からのインターネットガバナンスに関わっていない、例えばビジネスサプライチェーン関係者だったり、また全然違う業界に対して、他の業態、業種もインターネットと今、深い関わりを持つようになってきたことを踏まえると、何かアウトリーチ等が必要なのか、ないしはしていくのかみたいな課題意識を、これからどう考えていくなり対応していったらいいのかという意見を、これ私からではなくて、よそで耳にすることがございましたので、あるということで情報共有というか、感覚として皆さんの認識等をいただければと思ってコメントしました。以上です。

加藤： 田中さん、ありがとうございます。いかがでしょうか、皆さん。今 279 人ですね、山崎さんのメーリングリストに登録されてる方は。

山崎： はい、今日の正午時点ではそうです。

加藤： その方々には一応、同じ内容について連絡は行ってるんですが、それ以外にいろんな方にアウトリーチすること、IGF の年次総会なども、面白い興味深いプログラムを作って、そういう人にも聞いていただいて、その機会にこの活動に参加していただくということをやりたい希望はあるわけです。

いかがでしょうか、具体的にどういうアクションを取っていくといいかは常に議論がありますが、何かご意見ある方いらっしゃいますか。

前村： 前村ですけれども。決してこれを後ろ向きと取っていただきたくはないんですけれども、今、田中先生にも参加していただけてますけど、準備委員会のほうで次の体制どういうふうにしようかと考えてるところで、今、定款がやっと書き上がろうとしていて、それからどうの方々に会員になっていただくんですかというものが、そこからやっと、定款考えるのも時間かなり使ってしまったんですけれども、ただこれはデュープロセスというのが必要なプロセスだったんじゃないか、そのあとに、どういう人たちに働きかけていきたいと思いますかという話ができるんじゃないのか、私自身はそういう順番で考えています。それを考えると、活発化チームとしてやってきた今までのプロセスも、なかなかアウトリーチに到達できずにこの何年か過ごしていた感覚もありまして、それをできるための、リソース増強するためのプロセスが組織化だと思っていますんで、ぜひとも。今回は1つ残念なことは、今年の国内 IGF 活動の年次会合になる IGF 事前に関しても、新しい体制でできてないのがちょっと残念なんですけれども、早いことそういうことに着手できるようにやりたいと私個人は思っていて、その感覚を田中先生とも共有、僕はこう考えてるってのをちょっとお伝えしようと思い発言しました。以上です。

加藤： 前村さん、ありがとうございます。100 パーセント、私も agree です。他の方、皆さんいかがでしょうか。ぜひ、田中先生のところには若い学生さんもいっぱいいらっしゃるんで、そういう方も含めて参加しやすい、ぜひこういうことやってみたいって方が出てくる活動をしていくべきだと思

ますので、よろしく願います。

田中： ありがとうございます。私もアウトリーチに手が出せる状況ではないなかでの、こういう意見をよそから聞くことがあったので、皮膚感覚をいただけて非常にありがたかったです。ありがとうございます。

前村： ぜひとも、足らない体を合わせて、3本の矢ということも言いますし、頑張っていきましょう。

加藤： SIG もぜひ、どんどん日本でも進めていただければと思います。よろしく願います。あと他、言い残したこと、共有いただくことございますか。もしなければ、次回の会合なんですけれども、私のスケジュールも若干ありまして、できれば8月26日月曜日の夕方5時にしていただけるとありがたいんですが、皆様いかがでしょうか。26日は非常にまずいということであれば、ちょっと今、9月2日にどうしても前から入れたい会議が入ってまして、もし私抜きで9月2日でももちろん結構なんですけれども。8月26日にしていただいてもよろしいですか。何かと非常に重要な会議がバッティングして、この皆さんが参加できないとかそういうことございますでしょうか。

前村： 9月に入ってしまうと私が APNIC ミーティングとか始まってしましまして、8月の内がいいんじゃないかと思いました。

加藤： ありがとうございます。

前村： 自身の都合ですいません。

加藤： それでは、もし今、異論がなければ、8月26日月曜日に次回公開させていただくと。それまでに、当然プログラム委員会、少なくとも1度は集まっていたいただいて、11月の会合について何か案をご提案できるようにすること、それからその時点で台湾 APNIC の状況を、皆さん帰ってこられて情報交換ができるということで、8月26日月曜日、5時からでお願いしたいと思います。

以上で本日は終了としたいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。あと付け加えることございませんか。もしなければ、暑い日が続いて皆さんぜひ夏休みじっくり取っていただいて、健康にお暮らしいただきたいと思います。8月26日、次回よろしく願います。本日はありがとうございました。

前村： どうも皆さん、ありがとうございました。

加藤： ありがとうございました。

山崎： ありがとうございました。

加藤： 失礼いたします。

飯田： ありがとうございました。お疲れ様です。